

令和6年度 朝来市立（朝来中）学校 学校評価

学校教育目標

郷土を愛し、自ら学ぶ心豊かな生徒の育成 ～人は人によりて人となる～

総合的な学校関係者評価

○学校運営、教育課題、課題教育等全体的に概ね達成に近いとかがえます。今後、働き方改革は当然大切なことですが、なんでも削減、縮小というの危惧します。取組の意義をしっかりと考え、行うことが大切であると考えます。 ○いろいろな手法を考え、駆使されていると感じます。不登校気味の生徒や登校渋りの生徒へしっかりと手立てされ、運営されていると感じます。 ○授業を参観する中で、工夫されており楽しそうな雰囲気の中、笑顔で授業を受けている生徒たちが大変印象的でした。 ○一人一人の生徒に対して手厚く対応していただいていることがよく分かります。しかし、もう少し生徒自身が主体的に対応する場面を増やすことも必要であるのではと感じます。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	学校・学年・学級便りの定期的な発行や「さくら連絡網」により、リアルタイムな情報の発信に努めた。今後は、双方向による情報の共有化と、デジタル化の推進が必要である。	さくら連絡網により、修学旅行の様子や読書活動推進事業の取組内容と成果等、また下校時間の変更案内などがリアルタイムで学校から発信され、学校の様子が良く分かった。紙面配布を削減し、簡易なアンケートなどはWeb上で行うなど業務改善も進められている。
		学校運営協議会活動の充実	A	定例会を3回から4回に開催しただけでなく、合唱コンクールの審査や進路面接官など教職員と違った視点で生徒に直接助言等頂くことができた。今後は、学校と地域をつなぐコーディネーター的な役割担う計画立案が必要である。	今年度は、運営委員の増員が図られ、多様な人選が図られたことにより、活性化につながったと思う。また、制服検討委員会の委員を兼ねモデル制服の選定や校則の見直しにも熟議ができて充実したものとなった。今後も多様な人選を行うことが必要に思います。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	生徒会役員を中心による取組として、文化祭では生徒有志によるパフォーマンスを初試みとして実施できた。学級や学年に一体感が醸成され、自己肯定感につながったのではないかと考える。	生徒一人一人が主体となり、体育祭や文化祭などの行事が行われていると感じた。行事を通して生徒が充実した学校生活の基盤を築いているだけでなく、成長しているように思います。また、文化祭での新しい試みであるパフォーマンスは感動的でした。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	教職員が生徒の様子を毎日データ入力し、教職員間で情報の共有が図られた。教育相談を実施し、生徒に寄り添い、傾聴の姿勢を基本として対応しているが、信頼を築ききれない生徒もいる。	校則の見直しや新制服の導入等、今の時代に合わせた改革を生徒会中心に実施されたことは素晴らしいです。また、多様な価値観を認める社会背景の中で、様々な価値観を持つ生徒や保護者にどのように寄り添っていくかがこれからの課題と考えます。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A	問題行動の未然防止に努め、一人一人に寄り添った指導を年間通して行うことができた。また、校内サポートルーム（ほっぶスペース）を設置することで、子どもたちの居場所となり、教室復帰や学校登校につながった。	集団の中で、人格形成を図ることが大切と考えられる。不登校やいじめの原因が多岐にわたっていることから、保護者や家族に協力を求め、これまで以上に保護者との連携強化が必要と感じます。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	C	年度当初に危機管理マニュアル等について全職員で確認できた。一方で、地震・火災・土砂・不審者など多岐に渡るためマニュアルの確認点検だけでなく、計画的な実施訓練や研修を行っていく必要がある。	定期的な訓練は今後も必ず実施して見たい。マニュアルの見直しにおいては、年度当初だけでなく年度途中であっても機会を見つけて改訂していく必要を感じます。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	本年度は避難訓練を3回実施した。また、外部講師（EARTH隊員）を招いて、災害に対する講話をしていただいた。職員研修として、火災への対応として、防火シャッターの使用方法和火災報知器の知識等の研修を行うことができた。	定期的な避難訓練も実施され、職員研修にも取り組まれたことで防災意識が高まっている。生徒には「自分の命は自分で守る」ことを徹底させ、今後も様々な災害を想定した訓練を確実に実施頂きたいです。
		特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	定期的な校内支援委員会を実施し、課題や指導について共有することができた。一方で支援を要する生徒が多く、支援体制の限界にきている。市適応教室「すまいる」など他機関の有効な利用について、より積極的に進めていく必要がある。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	教職員からだけでなく、保健委員会の生徒も手洗いやうがいの呼びかけ、加湿器の稼働など感染対策を自治的に行うことができた。一方で、炎天下の中での体育祭においてもマスクを外せない生徒も数人いる。	手洗いやうがいといった基本的な感染対策を今後も励行し、感染対策に努めて頂きたい。コロナ禍で得た経験を活かしながら、効果的な教育活動の実践に努めて頂きたいです。
	あさごドリムアップ事業	特色ある学校づくり	A	地域と共にある学校づくりをすすめる上で、地域を知ることが大切である。ふるさと学習として、体験活動「鉱石の道学習」を実施しているが、単発的な取り組みとなっているため、系統的なカリキュラムを立案する必要がある。	地域と連携した体験事業は、地域の歴史を知り、未来につながる大切な学習となるため今後も継続して頂きたい。地域を知ること、ふるさと愛の醸成につなげて頂きたいです。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B	UDの推進については、見通しを立てる授業展開を始め、中尾教授のアセスメントも生かしながら、モニターと板書を活用しより良い授業をつくる工夫や努力が見られる。また生徒の実態に合わせた授業での課題や評価の仕方も工夫されている。	授業のUD化についての研修を引き続き実践してもらいたい。ただし、そのことで生徒の成長を妨げることがないように願いたい。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	ペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、意見交換により多角的な視点の獲得があり、様々な工夫が見られる授業が多くあるが、基礎基本を身につけるための反復練習の時間もしっかりと確保し学力向上につなげていく必要がある。	生徒の学力に応じた習熟度別指導や生徒同士で教え合えるなど、一人一人のレベルに合った学習が環境になれば、更に向上するのではと考えます。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	道徳の研究授業を実施し、研究協議することができなかった。次年度は研修計画をするとともに、校区の小学校や市内の中学校で実施されている道徳の研究授業への参加を増やすことや参加者から情報提供を受けるなど有効な研修に繋げていきたい。	お互いに授業参観することや研究授業を実践することで、先生同士がさまざまな意見を交流され、先生方自身が成長される良い機会になると感じます。
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	C	積極的にICTを活用する土壌が確立されている。オンライン授業も定期的に実施し、いつでも、どこでも学べる環境の整備に務めている。大型提示装置転送の不備や生徒用タブレットの修理交渉、ICTに関する調査など煩雑さも増加しており改善したい。	オンライン授業がスムーズに行えると不登校生徒や欠席した生徒も学ぶ機会が増えると思える。一方でパソコンの修繕やICT環境の不具合等で先生方の負担が大きいと聞きます。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	地区巡回学習や人権講演会への参加など、人権に関わる取り組みを年間通して実施できた。人権集会では生徒の意見発表を取り入れるなど人権を自分事として考える機会を設けた。LGBTなど新たな人権課題の出現に対応できる教職員の研修が必要である。	生職員が地区巡回学習会に参加する姿勢は、人権意識の向上につながっている。今後も、その姿勢を継続していただきたい。また、学校独自に人権集会や人権週間を設定することで、さらに人権感覚が磨かれ、自分の思いや相手の思いを大切にできる生徒の育成を図って頂きたいです。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	学校行事や体験活動を行う中で、事前事後においても生徒が主体的に取り組める学習を行い、行事の目的や狙いが達成できた。また、その成果を全校集会で発表したり、小生に発表することで、より一層生徒の達成感や自信へ繋げることができた。	体育祭や文化祭などの学校行事では、生徒が主体となり生き生きと活動する姿を目の当たりにし、見ている方も元気になった。「トライやる・ウィーク」報告会では、生徒の頑張りが見られよい経験ができていると感じます。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	給食センターの動画視聴や、毎日の放送で給食について説明や情報の発信、給食委員による残菜を減らすキャンペーンなどが行われているが、学年によっては食事を残すことに全く抵抗のない生徒が多く見られる。給食残菜へ向けた指導に努めていく。	残菜が多いと聞くと、食育として外部講師を招聘して講話を聴くなどの意識づけが必要に感じる。また、学校と家庭が連携し、より良い食育環境が整うことを期待しています。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	行事がある度にキャリアノートを導入し、自身の成長を確認する機会を必ず設けた。キャリア・パスポートの小学校からの引継ぎや高校への引き渡しも確実に進めている。学活を要したキャリア教育の実践が不十分のため、職員研修が必要である。	小中の連携をさらに強化され、9年間を通したキャリア教育が実践されることを期待しています。
	その他	・読書活動推進事業の充実。 ・授業づくりのユニバーサルデザイン化の推進。	A	2年間の研究指定「読書活動推進事業」を受け、読書習慣の定着と不読率の解消に向けて計画的に取り組めた。この取組を継続することが必要である。また、授業づくりににおいては、教職員の意識改革につながったと考える。	2年間に渡る読書活動推進の研修を進めてこれら、読書への関心が高まっているところなので、長く継続していける内容を精査し、ぜひ今後も続けていってほしいです。